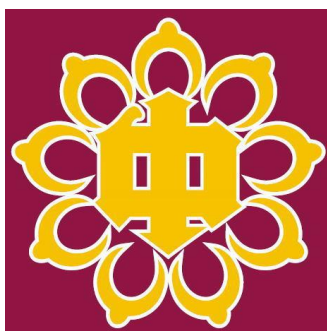


## 令和2年度 「特色ある学校づくり対策事業」実践事例報告



### 佐世保市立宇久中学校

所在地 佐世保市宇久町平 2303 番地

校長 古庄 忍

生徒数 15名 学級数 2 (R3.3.1)

### (実践テーマ) ～郷土を愛し、郷土に貢献する心を養う～

#### ○ 実践テーマ設定の理由 (目的)

本校生徒は、1島1中学校で、地域住民の方々の温かいご支援を受けて育っている。しかし、高校を卒業するとほとんどの生徒が島外へ進学・就職していく実態がある。

そこで、島を出るまでに生き抜く力をしっかり身につけること、島外に出ることになっても、地域で生まれ、愛されてきたことがバックボーンとなって自信を持って歩いていくことができること、また、将来においてもふるさとを愛し、ふるさとの発展に貢献する人材の育成を目指し、上記のテーマを設定した。

#### ○ 重点項目および実践内容

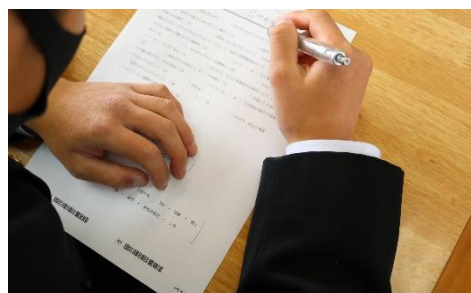
上記の目的を達成するために、以下の5点を重点項目として取り組んだ。

- |          |        |        |
|----------|--------|--------|
| 1 学力向上   | 2 環境自然 | 3 郷土学習 |
| 4 キャリア教育 | 5 健康食育 |        |

#### 1 学力向上

##### (1) 朝自習テストの完全合格

国・数・英の3教科を学力重点教科とし、朝自習で学習に取り組み、月末に昇級テストを実施した。テスト作成と昇級に関しては教科担任が行い、テスト監督や採点は学年全職員で協力して取り組んだ。合格できなかった場合には、繰り返し再テストを行い、実力をつけられるよう支援した。

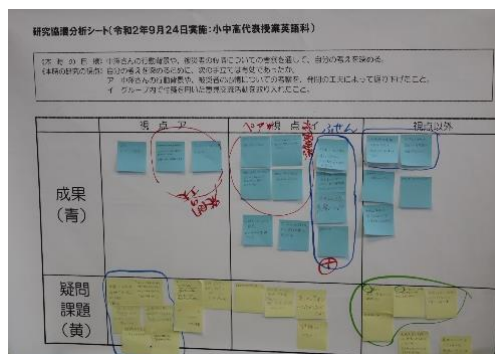


## (2) 家庭学習

宿題とは別に、毎日2ページの家庭学習を行っている。学年職員で点検をし、課題に対する指導や支援を行っている。その結果、家庭学習の定着を図ることができた。今後は家庭学習の質の高さを求めていく必要がある。

## (3) 小中高での授業研究

小中高全教員で、それぞれの校種の授業を公開し、授業研究を開催。今年度は小学校で算数科、中学校で英語科、高校での国語科でそれぞれの研究授業を行った。12年間を見据えた学習指導の在り方について、研究を深めるため、指導案の基礎的部分の統一、授業研究会でのワークショップ形式での討議など、様々な方策を通して、児童生徒の学力向上を図った。



## (4) リーディングスキルテストの実施

全国学力調査や県学力調査の結果から、文の照応関係や資料の読み取りに課題が見られたため、リーディングスキルテストを実施し、より細かい生徒の実態把握に努めた。このことにより生徒一人ひとりの課題を職員が把握し、よりきめ細かな個に応じた指導につなげることができた。また、生徒自身も自らの課題を認識し、学習方法を再考する機会となった。

## 2 環境自然

五島列島最北端の宇久島は、大変美しい環境に恵まれていると同時に、少子高齢化という過疎化も深刻化している。美しい地域を守るとともに、宇久島を維持していくために、自分たちにできることは何かを考え活動している。

### (1) 海岸清掃(9月26日)

郷土の身近な自然の実態を知ることにより環境保全の心や宇久の自然を愛する心を育てるとともに、小中高が協力して自分ができることを考え、実践する機会とすることを目的に計画した。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため小、中、高それぞれの校種ごとに実施した。保護者の方も参加していただき、PTA一体となった活動ができた。



## (2) 地学研修・海洋研修（6月6日、11月7日）

海洋研修では、宇久島の海洋資源について学ぶことができた。特にイカの解剖では生物のいのちを実感として抱き、自然や崇高なものとの関わりについて見つめ直す機会となった。地域の方にもゲストティチャーとして参加していただいた。地学研修では、宇久島の特徴的な地形や岩石について理解を深め、宇久島の成り立ちについて学ぶことができた。



## 3 郷土学習

### (1) 宇久地区無形文化財「なぎなた踊り」（全校生徒）

#### ①「なぎなた踊り」とは

本飯良地区八幡神社に伝わる奉納踊り。さまざまな踊りの様式が入り乱れて伝承されたようで、一部には歌舞伎勸進帳の弁慶・富樫を模し、また、一部には弁慶・牛若丸を模していると言われている。一度途絶えた踊りを発掘したものであるため、長い間に徐々に変容していき、現在に至っている。

踊りは、弁慶・富樫を模した問答の後、緩やかななぎなた踊りに移る。お謡いにあわせて、大太刀（男踊り）、小太刀（女踊り）で踊る。

※統合前の神浦中学校が掘り起こして、現在本校で伝承している。



#### ②本校での取組

目的を下記のとおり設定した。

- ・郷土の伝統芸能を体験することにより、地域理解と宇久島のすばらしさを発見し伝統を継承する。
- ・「なぎなた踊り」の歴史的背景を学習し、学んだことを表現する。
- ・他学年とコミュニケーションを図りながら、協力して踊りを作り上げることの大切さを味わう。



#### <実際の取組>

##### ・地域との連携

地域の方を講師としてお招きし、ご指導いただくことで、できるだけ昔の形で残せるように取り組んでいる。

##### ・リーダーの育成

大太刀、小太刀、お謡いとそれぞれ3年生がパートリーダーとなり、リーダーの指示のもと、自分たちで本時の目標を決め、取り組んでいる。



<今年度を振り返って>

今年度も例年同様に八幡神社で披露する予定であったが、コロナ禍のなか急遽、本校文化発表会で披露することとなった。全く初めてのかたちとなったため、演技順や隊形など変更することになったが、そのことで生徒自らがアイデアを出し合うなど、リーダー性を滋養するとともに、主体性を引き出す機会となった。



## (2) 宇久島調べ(1年:10月1日)

宇久島の歴史や文化について、地域の方を講師としてお招きし、自分たちが住む宇久島には、どんな歴史があるのかを、実際にフィールドワークをすることで再発見し、宇久島の魅力を学習している。



## 4 キャリア教育

キャリア教育として映画「夢は牛のお医者さん」を鑑賞した。宇久島には牛を扱う畜産農家も多いことから、牛の獣医という職業を身近に感じ自分のこととして考えることができていた。キャリア発達を促す一助となった。

## 5 健康食育

全学年で地域食材を使った調理実習を行った。豊かな海洋資源、また宇久島の特産品について学ぶ機会となった。小中高一貫教育の共通の取組である「自分で作るお弁当の日」では、今年度は自宅で弁当をつくり、その写真を投稿するかたちをとった。栄養面で偏りが出ることがないように工夫するなど健康管理について考える機会となった。栄養教諭や養護教諭の指導のもと、調理の技能だけでなく、食に関する意識も高まっている。



## 【成果と課題】

今年度はコロナ禍のなか予定を大幅に変更する取組となった。特にキャリア教育の一環として松崎運之助さん※(松竹映画「学校」の原作モデル)を招聘し、講演「いのちの光を大きく輝かせるために」を中止せざるを得なかったことは残念であった。

しかし、宇久地区無形文化財「なぎなた踊り」の取組や海岸清掃、地学研修などでは、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、例年と違う形で実施できたことは、今後予測不可能な時代を生き抜く生徒にとって、対応力や柔軟性を養うよい機会となった。

1年間にわたり、5つの重点項目における各プログラムを実施したが、生徒が限られた活動のなか意欲的に取り組んだことで、実践テーマ「郷土を愛し、郷土に貢献する心を養う」人材育成を図ることができた。